

公園等施設における警備・巡回の代行サービス実現について(リモートロボティクス) ～あいちロボット産業クラスター推進協議会プロジェクトチーム(PT)～

》 プロジェクトチームの概要

【背景・課題】

公園等の施設の警備業務における人手不足の解消を図るため、リモートロボットを活用したシステム及びサービスにおける企画を検討するにあたっての具体的な関係者からの声収集が難しい

【活動目的】

公園等の施設の警備業務における関係者の実際の声を集め、システムおよびサービスに係る課題や期待を収集、要求仕様を定める

【取組方針】

公園等の施設の警備業務における関係者の実際の声を優先し、もともとの企画案を柔軟に見直す

》 各回ミーティング等の実施概要

【第1回】

・愛知県下の全7団体、全10人の公園管理の関係者からシステムおよびサービスに関わる課題やニーズを確認。アンケートで事前に確認を行ったうえで、より詳細な確認・議論を対面で実施

【第2回】

・管理者2団体に対して、具体的な利用シーンやそれにもとづく詳細なニーズや、それに基づき仕様の確認

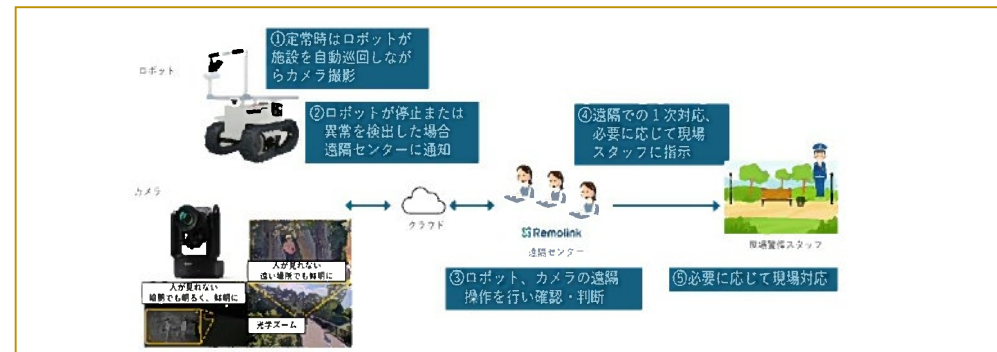
・あわせて、警備会社に対してもシステムおよびサービスを提供するにあたっての座組検討におけるニーズや課題感を確認した

・サービスを提供するにあたっての警備業法上の懸念がないか、愛知県警の担当者と打ち合わせを行った

【第3回】

・警備業法上の懸念踏まえ、警備でなく、案内におけるニーズをもつ、管理者に対して、具体的な利用シーンやそれにもとづく詳細なニーズや、それに基づき仕様の確認

》 製品・システムの概要



》 成果・PTで明らかになったこと

- ・警備人員の不足は公園管理者、警備会社双方の視点で深刻
- ・公園管理者からの期待としてリモートロボットの仕組みで警備のコスト・品質の安定化があり、具体的な利用シーン（路駐の確認や、バス停での交通安全確保）も明確になった
- ・一方で、ニーズにリモートロボットを基に対応するには、警備業法上、警備免許が求められるとともに、警備会社経由でのサービス提供は混同警備の懸念があることが分かった
- ・警備という領域ありきで始めたPJであったが、公園という場においては、案内やイベント時の施設管理の対応におけるニーズのほうがより本質的なニーズがある可能性も見えてきた。
- ・現在は案内を警備員がおこなってケースが多く、結果的に、警備員の省人化を期待できる可能性

》 課題・今後に向けての取り組み

- ・ディスプレイ付き移動ロボットと、固定ディスプレイの配置の両にらみで、公園内における案内全般（目的地、施設、混雑状況など）に対応できるシステムおよびサービスの検討をすすめる
- ・このシステムおよびサービスの有用性をPTにご協力いただいた管理者のかたと共に検証させていただくことを視野に、実証補助金の活用も見据えながら活動をすすめていく